

stage

演劇空間スペースベン

捨て行く世紀へ 超短編小説 「消えたゲロおばちゃん」

〈文・山田景子〉

俺は若かった。

酔っぱらいの立ち小便が
朝もやに混じって

レモン色に立ち昇る早朝に、
ゲロおばちゃんを
見るのが楽しみだった。

おばちゃんはほやく。

「最近の胃液は強くてね
今週はもう3ペンも
ゴム手袋を新調したよ」

俺はおばちゃんを
手伝おうと近づくのだが
目にしみるほどの悪臭に
突き飛ばされて笑われる。

おばちゃんは
海女のように息をとめて
いっこく堂のように
口を閉じて話ができる。

俺は尊敬していた。
大人になった俺は
いつかこの町からゲロを
なくそうと、

「ゲロおばちゃんを救うぞ」

胃液にやられ、手袋代も
ままならない。

「手袋屋に協賛してもらった
らどうか」

次の会議で一人が言った。
「そんなの何でうちの店が負担
しなきゃいけないナイジエリア？
ゲロする奴から徴収りキ」

俺はもつともだと思つた。

夜の街に立つて
ゲロしそうな奴を探したが
気が付くとゲロだけが
俺に挑戦するかのよう
に側溝やビルのすき間から
異臭を放っている。

それも翌朝には
何事もなかったように
おばちゃんが片づけるのだ。

「他都市ではどうだろう」
次の会議で一人が言った。

「おたくの街では夜のゲロは
どうされていますか？」
電話をかけたなら

「ハッピースカトロ」に回された。
ゲロは好きだが夜の街の誰とも
からぬゲロは対象になりません
と丁寧な断られた。

「楽しくなけりゃダメ。
やっぱバンドでしょ。八戸は
バンドが盛んだし」
♪オエーオエーオ！
♪ゲロッパゲロゲロ！
盛り上がったが

「うるさい」と苦情がでた。

「ほらね？」とバンドマン達は
分りきったように片づけて
帰っていった。

俺はだんだん自分が何を
しているのかわからなくなってきた。
俺はただ夜の街から無責任なゲロを
なすだけだ。

「あんなもゲロかい？」
「なにいつてんだババア！
俺はあんたの為にこんなになつて
がんばつてんだ！なんでそんな
目で見られなきゃいけないんだ！
むかむかは最高潮に達し一気に
ゲロが吹き出した。
おばちゃんは俺の胃液で溶けた。

翌日、街はゲロだらけだった。
「そうだ！みんなで力を合わせて
話も弾み団結した！
酒が入るといつになく闊達になった。
話も弾み団結した！
「そうだ！みんなで力を合わせて
夜の街からゲロをなくそう！」

「終わる」

1月のFriday Amusement Negative Shop

※全て午後7時30分～、料金500円
チケットはスペースベンにて販売

中里病院
→至三日町
NTT Space BEN

駐車場はございませんので、車での
ご来場はご遠慮下さい。
(近くに西町書店駐車場有り)

スペースベン
〒830-0111 八戸市柏崎1-11-8
☎&FAX 43-9876

FANSの番組につきましては、デー
リー東北の「あすのメモ」「きょうの
メモ」欄でご確認下さい。

FANSでは、脚本を広く募集して
います。何か表現したくても踏み出
せないあなた、一度「物語」
を書いてみませんか？ FANSで
は、そんな方の思いを大切に舞台
にのせてみたいと思っております。

■1月5日(第361回)
「勝手に新年会」
※FANSを一度でもご覧になった方なら
どなたでもいらして下さい。いつもど
おり、勝手に新年会をしています。
参加料は500円です。
自分で飲みたい物、食べたい物を持参
してご参加下さい。

■1月12日(第362回)
未定

■1月19日(第363回)
安達良春プラスワンシアター
タイトル未定

■1月26日(第364回)
未定